

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十八年

七月

戦下の夏の子

暑い／＼といふのは、おとなのことです。元氣な子どもは、暑さも知りません。暑くつても暑いと思ひません。暑いと思ふことがあつても、暑さを苦にしません。たゞ、暑い日中を、包んだり、くるまれたりしてゐてはたまりません。

裸こそ、夏の子の姿です。未開野蠻の不作法でない限り、顔はもとより、手も足も背も、折角の強い日光に直面させて、黒光りのいゝ光澤に膚をやませう。

汗こそ、夏の子の生活です。うんと駆け、うんと飛びはね、うんと力を入れて、存分に汗を流させることです。汗を氣にするのはおとなです。或はおとなの着物です。何ことにも無頓着な子ども、殊に無頓着なのは自分の汗です。

裸と汗、それが結びついた鍛錬こそ、夏の子の教育です。身體が鍛へられるばかりではありません。幼いなりに豪拓雄壯な氣を練ることが出來ます。

戦下の夏を、幼児のために、うんと積極的に迎へませう。やがては、赤道に近く活躍する我が子です。スクールにつぶぬれて、豪快に笑つて闊歩する我が子です。その豫備訓練をして呉れる夏です。

幼稚園から

○ふだんでもですが、夏は、ことさら、お子さんを、うんと遊ばせます。着物のよごれも汗と砂で、はげしいでせうし、第一、汗で全身がまみれます。お歸りになつたら、きつと直ぐ、よく洗ふなり、拭くなりしてあげて下さい。

○汗がはげしいのですから、着がへをもたしてよこして下さる必要がありますね。着かへさせてあげます。殊に、お歸りの時、汗にぬれたまゝ、長い間電車に乗つて、窓の風に吹かれて、うとく／＼したりするといけませんからね。

○汗にぬれた着物を、幼稚園で洗つて差上げるといふのですし、そうしたいと思ふのですが、手がまわりません。どうしたらよるしいでせう。お母さま方が相談して下さい、かわる／＼とあなたか幼稚園で、すゝぎ洗ひして下さるといふとも思ひますよ。物干し位なところで工夫しますから。但し、勤務にお忙しい母の場合に、勿論こんなことは申しません。